『諺 臍の宿替』における罵りの助動詞について
—クサル・ヤガル・テケツカルを中心に–

村中 淑子
桃山学院大学
tmuranaka@andrew.ac.jp

A Study of Auxiliary Verbs of Cursing in Kokkei-bon Which Was Published in Osaka

MURANAKA Toshiko
St. Andrew's University

Key Words: Osaka Dialect, Edo Period, Kusaru, Yagaru, Teketsukaru

要旨

江戸時代末期の大阪の戯作である『諺 臍の宿替』『穴さがし 臍の宿替 初篇』『新板 臍の宿かへ 弐編』『穴さがし心の内そと』を用いて，罵りの助動詞について考察した．8形式の出現状況を見た後，クサル，ヤガル，テケツカルの3形式の用例を検討した．その結果，テケツカルには，「…ときてけつかる」という定型的パターンがあること，さまざまな疑問詞とともに使われて修辞疑問文の相手を責める意を強めること，動詞「思う」とともに使われやすいことがわかった．クサル・ヤガルについては，「言う」という意味を持つ動詞とともに使われやすいこと，悪い意味を持つ形式が前接する場合が比較的多いことがわかった．

1　はじめに

村中（2019）では，幕末期の大阪語の代表的資料である一荷堂半水の戯作『穴さがし心の内そと』(1864ごろ)を用いて，大阪語の罵りの助動詞ヨル，クサル，ヤガル，テケツカル，サラス，テヤル，テコマスの7形式の出現状況を調べ，用例を検討した．

本稿では，村中（2019）のいわば続編として，同じ一荷堂半水による戯文集『諺 臍の宿替』，および，その関連本である『穴さがし 臍の宿替 初篇』と『新板 臍の宿かへ 弐編』を資料として加え，大阪語の罵りの助動詞についての考察を発展させることを目的とする．上記の7形式に加えて，テウセルも含めた計8形式を調査項目とし，罵りの助動詞の網羅性をより高めて出現状況を観察する[1]．

8形式の中で性質が似ていると思われるクサル，ヤガル，テケツカルの3つについては，違いを明らかにするため，全用例を検討する．

２　対象と方法

２．１　調査項目

罵りの助動詞ヨル，ヤガル，クサル，サラス，テケツカル，テヤル，テコマス，テウセルの 8 つの形式を対象とし，資料を調査する．大阪語における罵りの助動詞をできるだけ網羅的に調べようという意図から選んだ項目である[2].

ヨル，ヤガル，クサル，サラス，テケツカル，テウセルの 6 語は，話し手以外の動作を表す動詞に接続し，動作主を罵るニュアンスを含む形式である．このうち，ヨル，ヤガル，テケツカルの 3 語については，本動詞としての働きはなく，助動詞のみである（ケツカルは古くは「居る・有る」の意味あり）．これら 3 語には実質的な意味がなく，「罵り」という機能的な意味のみがある．クサルには本動詞「腐る」があるが，本動詞には，罵りの意味は含まれない．罵りの助動詞として使われるときには「微生物の作用でものが腐敗する」という本動詞の意味は残らない．すなわち，助動詞クサルは，本動詞クサルと起源は同じだとしても，別の語と考えて差し支えないだろう．サラスには本動詞「さらす」があり，「する」の罵り語にあたる．すなわち助動詞として働く場合と，似通っている．テウセルには，本動詞「失せる」があり，「去る」「行く」「来る」「居る」の罵り語としての意味をもつ．テウセルの形になった場合も，「罵り」に加えて，「去る」「行く」「来る」「居る」のいずれかの意味が含まれる．

テヤル，テコマスの 2 語は，話し手の動作を表す動詞に接続し，動作の対象になんらかの被害を与える意図を示す，という機能を持つ．「被害を与える意図」は，「罵り」に強くつながるものと考えられる．ヤルとコマスは，共に本動詞としては「与える」の意味を持つ．

以上を表にまとめたものが表 1 である．

表１　調査項目とする助動詞

接続する動詞	語形	本動詞があるかどうか	本動詞としての意味
話し手「以外」の動作を表す動詞につく	ヨル	なし	——
	ヤガル	なし	——
	テケツカル	なし（古くはあり）	——（古くは「居る」「有る」）
	クサル	あり （ただし意味が異なる）	「微生物の作用でものが腐敗する」 （助動詞の意味とは関わりなし．本動詞としては罵りの意味はない．）
	サラス	あり	「する」
	テウセル	あり	「去る」「行く」「来る」「居る」
話し手の動作を表す動詞につく	テヤル	あり	「与える」
	テコマス	あり	「与える」

２．２　資料

資料は次のとおりである．すべて一荷堂半水の作品であり，幕末期の大阪語の資料である．

・滑稽本『穴さがし心の内そと』（以下，略称「内そと」とする）
・戯文集『諺 臍の宿替』（以下，略称「宿替」とする）

・『穴さがし臍の宿替　初篇』（以下，略称「初篇」とする）
・『新板臍の宿かへ　弐編』（以下，略称「弐編」とする）

『穴さがし心の内そと』は，さまざまな人物について，その表面的言動を示した後に，裏面的実相を暴く，そのような文章のセットを連ねたものである．登場人物が多彩である[3]．初ノ二から初ノ十五，二ノ二から二ノ十五，三ノ二から三ノ十五まで，計42編ある[4]．

『諺 臍の宿替』は，諺や慣用句にちなんだ会話体の滑稽な文章を連ねたものである．通常の人間だけでなく，人間の体の一部分や動物が話し手の場合がある．また文章に隣接して配置された挿絵には，体が大幅に変形された人間が登場したり，裸体や排泄行為が盛り込まれたりしており，ナンセンスギャグ的要素が強い．たとえば「出る杭をうつ」と題した文章は，杭の形をした男女が，木槌を持った2人の男に頭を打たれる挿絵がついており，文章には，杭をうつ人物のセリフと杭（人間）のセリフとが示されている．初編から第十三編まであり，それぞれに第一丁から第十一丁まで含まれているが，第三編と第十一編は第一丁から第十丁までである．追補があり，追補一は第一丁から第十五丁まで，追補二は第一丁から第二十一丁まである[5]．計177丁である．

『穴さがし臍の宿替　初篇』（『大笑顔づくし』という別書名もあり）と『新板臍の宿かへ　弐編』は，「人物の顔面の表情を大写しに描いた上部に独白体の戯文が添う」内容の，「上方板の顔づくし本」[6]である．『穴さがし臍の宿替　初篇』は，別名「大笑顔づくし」となっており，「かね持じまん・貧ぼう人のじまん」「金があつてよふつかわんひとりごと・金がないのにつかひたがるひとりごと」のように，対になる人物を対比した文章が 17 組ある．『新板臍の宿かへ　弐編』は，「一名うぬぼれかゞみ」とあり，個々の断片のタイトルは「商内（あきなひ）好」と「放蕩（のら）好」，「上戸好」と「下戸好」のような「なになに好き」のペアが15組ある．

『穴さがし心の内そと』と『諺 臍の宿替』は，複数人による会話と独白体とが混在しているが，『穴さがし臍の宿替　初篇』と『新板臍の宿かへ　弐編』は，ほとんどが独白体であるのが特徴である（複数人による会話も，わずかにある）．

２．３　方法

文字資料を目視で確認し，調査項目を含む文を取り出し，数えて，その結果を表にする．『穴さがし心の内そと』については，テウセルのみ数え，それ以外の語形については，村中（2019）で得られたデータを用いる．

３　結果と考察

３．１　出現状況

『諺 臍の宿替』『穴さがし臍の宿替　初篇』『新板臍の宿かへ　弐編』『穴さがし心の内そと』において，調査対象となる語形が出現した数を，表２に示す．

表２　罵りの助動詞・補助動詞の出現数

	宿替	初篇	弐編	内そと	計
テヤル	112	0	0	6	118
ヨル・オル	45	9	5	6	65
クサル	15	0	0	9	24
ヤガル	11	4	0	2	17
テケツカル	9	2	0	4	15
テウセル	4	1	0	2	7
テコマス	1	1	0	0	2
サラス	1	0	0	0	1
計	198	17	5	29	249

表２で，8 つの語形の出現合計数を見ると，出現ゼロの語形はない．一度でも使われているということは，この時期の大阪方言に当該語形が存在した証拠と言ってよいだろう．特に，『穴さがし心の内そと』に出現しなかったサラスとテコマスが，今回扱った資料において，ごくわずかでも出現したことには，意味があると言えよう．

『諺 臍の宿替』には，8つの語形が一通り出現している．これは，他の作品に比べてデータ量（文字数）が多いことが一つの要因であろうが，文脈に多様性があるために，多様な語形が出現したということも考えられる．

各語形の出現状況を見ると，『諺　臍の宿替』は，テヤルの出現割合が著しく多いことがわかる．これは誰かに対して「…してやる」と憂さ晴らしの実行を予言するようなセリフが多いためだと思われる．２．２で述べたように，この資料は変形された人間や人間の一部が喋るというナンセンスギャグ的な内容が豊富であり，そのことと憂さ晴らし的発言あるいは仕返しをしてやるというような発言が関係するかもしれないが，詳細については別稿を期したい．

『穴さがし臍の宿替　初篇』と『新板臍の宿かへ　弐編』は，独白体がほとんどであるという共通点があり，資料の量も近似しているが，語形の出現状況が異なる．『初篇』にはヨル・オル，ヤガル，テケツカル，テコマスが出現しているが，『弐編』はヨル・オルだけである．これは，文脈の違いによるものであろう．『弐編』には，あまり強く人を罵るような内容が見られない．一方，『初篇』には「喧嘩」の断片が複数あり，「せり合い」や「怒り上戸」もある．人を罵る文脈が出やすく，さまざまな罵りの助動詞が出やすいわけである．

３．２　クサル，ヤガル，テケツカルの用例

クサル，ヤガル，テケツカルの３つの形式については，次の３つの共通点がある．

① 話し手以外の動作を表す動詞に接続する．
② 罵りの程度が近い．①に当てはまるヨル・ヤガル・テケツカル・クサル・サラス・テウセルのなかでは，ヨルの罵りの程度は弱い．

③ 本動詞の意味とまぎれることがない．ヤガルとテケツカルにはそもそも本動詞がない．クサルは同形の本動詞があるが，助動詞の場合と意味が重ならない．サラス・テウセルは本動詞の意味と助動詞の意味が重なる．

これらの共通点を持つクサル，ヤガル，テケツカルの3形式に絞って，まず全用例を挙げたのち，次節で検討する．

以下に示す用例では，当該形式の部分に下線を引いた．後ろのカッコ内は，（資料名，資料ページもしくは資料の章番号，話し手→聞き手，待遇対象）である．聞き手と待遇対象が同一である場合は，「話し手→聞き手」のように，聞き手に太い下線を引き，待遇対象は省く．表記はふりがなも含めて出典のままであるが，2 文字以上を繰り返す「くの字点」の部分のみ，仮名書きで繰り返して書くことにした．

３．２．１　クサル（24 件）

クサルの出現した文を出典ごとに出現順に示す．

⑴ いつでも小づかひ銭をぬすミくさつて，（宿替 24・親→息子）
⑵ 己(おれ)が忌(きら)いの線香をたきに往(ゆき)くさつて，（宿替 25・雷婆々ひとりごと，極道息子）
⑶ 幕あけまへハほこりをかけくさるし，（宿替 79・男ひとりごと，芝居の関係者）
⑷ 己(おれ)の姿を見付られたら，はだかに仕ても，とりくさるよつて（宿替 101・男ひとりごと，借金取り）
⑸ 内へもどるとケンケンいゝくさる．（宿替 109・女ひとりごと[7]，男）
⑹ 毎日毎日出あるいて斗り居くさるが，（宿替 135・米櫃→男）
⑺ 合手(あいて)にも仕てくれぬやうなめに合しくさつたぞ．（宿替 135・酒通[8]→男）
⑻ わしらもミな不自由なめに合しくさつたかハり，（宿替 135・炭醤油→男）
⑼ 常たんばかりしくさつて，（宿替 143・親方→丁稚）
⑽ 又してもおれが目をぬすミくさつて．（宿替 143・親方→丁稚）
⑾ 親を片わ者のやうにいわしくさる[9]．（宿替 169・男ひとりごと，自分の中足（陰部））
⑿ 足のさきでつぶしくさつた．（宿替 169・男ひとりごと，自分の中足（陰部））
⒀ コリヤコリヤまちくされ．（宿替 177・酒飲み男→こもだる）
⒁ あるだけのミくさる．はようにげにげ．（宿替 177・こもだるひとりごと，酒飲み男）
⒂ まアこれ迄，なんべんおれをだましくさつたかしれやせん．（宿替 190・男→男）
⒃ なにをぬかしくさる（内そと 初ノ七・和尚→弟子）
⒄ 節季(せつき)になると私(わし)にことはりばかり言(いわ)しくさつて（内そと 初ノ八・女房ひとりごと，亭主）
⒅ ようまアこんなことを書(かい)ておこしくさつたナア（内そと 初ノ八・女房ひとりごと，亭主の相手）

(19) アノ爰な狸めが狐にだまされて居るのもしらずにわしまでだましくさつたナ（内そと 初ノ八・女房→亭主）
(20) 何ぬかしくさるゾ（内そと 初ノ十二・番頭→丁稚）
(21) 又ゆかねバ例の悪口ぬかしくさるがいやさに（内そと 二ノ二・風流人→嫁，風流仲間）
(22) ゑらさうにポンポンとぼうはりくさつて（内そと 二ノ九・中居→同僚，客）
(23) とうふやまでが哢くさる（内そと 三ノ十・嫁→隣の内儀，豆腐屋）
(24) それハともかく此様な処へ折々来くさつたら（内そと 三ノ十五・親父→息子）

３．２．２　ヤガル（17 件）

ヤガルの出現した文を出典ごとに出現順に示す.

(25) この野郎め，いゝ口斗りきゝやアがつて，（宿替 84・男→男）
(26) すました面をさらしやアがる.（宿替 84・男→男）
(27) 此お二人をほり出しやアがつて.（宿替 90・忰→親父）
(28) どんなつらしてぬかしやアがる.（宿替 90・忰→親父）
(29) 肴の小言をぬかしやアがつて.（宿替 91・料理屋→客）
(30) あぶないあぶない．ドゞどふしやがるのじや.（宿替 112・男ひとりごと，状況そのもの[10]）
(31) おのれゆへに己の面までよごしやアがつて.（宿替 135・酒通→男）
(32) ヤイヤイ待あがれ待あがれ待あがれ（宿替 135・米櫃・酒通・炭醤油→男）
(33) 小遣ひ銭もろくにおこしあがらんよつて，（宿替 149・息子→父）
(34) うせあがつたら（宿替 171・尻うける人→周囲，尻持ってくる人）
(35) はゞかりながら，これ見やがれ.（宿替 179・くだまく男→嫁）
(36) 何ぬかしやがるやら.（初篇 109・男→男）
(37) 何ぬかしやがる.（初篇 114・痩せた男→太った男）
(38) どたま打ち通しにしていやがつて.（初篇 114・背の低い男→背の高い男）
(39) 毒性な目に合わしやがつた.（初篇 122・芝居好き→角力好き）
(40) 外に用事もなしにわざわざ歩行せあがつて（内そと 二ノ二・風流人→嫁，風流仲間）
(41) ヱヽ置やがれ（内そと 三ノ五・幇間菊八→女房）

３．２．３　テケツカル（15 件）

テケツカルの出現した文を出典ごとに出現順に示す.

(42) われが尻ハとび色で，つまらぬ尻ときてけつかる.（宿替 19・猿→猿）
(43) 大の好淫ときてけつかるが，（宿替 31・商人ひとりごと[11]，客）
(44) 心ハさえずに，眼がさへてけつかるハ.（宿替 50・男ひとりごと，状況そのもの）
(45) はゞかりながら誰じやと思ふてけつかるゾ.（宿替 54・娘→周囲の人々）

(46) 聞へぬつらさらして，グウグウと寐てけつかるが，（宿替 63・男→大きな耳）
(47) ところで商売が盗屋藤兵へときてけつかるが，（宿替 133・盗人ひとりごと，状況）
(48) おのれハなんとおもふてけつかるのじや（宿替 143・親方→丁稚）
(49) 目ふさいで見てけつかれ．（宿替 149・息子→父）
(50) とんと勘弥手まりときてけつかるハ．（宿替 192・男→大きな手，状況）
(51) おのれがよふ飲まずと，向(むこ)に飲んでもろてけつかる．（初篇 109・男→男）
(52) 人を飴の鳥のよふに思ふてけつかる．（初篇 114・背の低い男→背の高い男）
(53) 此方(こち)の蕩夫(のろけ)めがどこへいてけつかるのじや（内そと 初ノ八・女房ひとりごと，亭主）
(54) たつた二こうりのにつくりにいつまでかゝつてけつかるのじや（内そと 初ノ十二・番頭→丁稚）
(55) あつかんで一(いつ)ぱいくれんカ何をぐづぐづしてけつかるゾ（内そと 二ノ二・風雅人→嫁）
(56) 手先(てさき)が肥前(ひぜん)に首(くび)すじが紀朶(きしう)とのおまけにお片目(かため)といふ面(つら)でハ恐(おそ)れ入(いり)がらのじりじりときてけつかるアハヽヽ（内そと 二ノ七・丁稚→夜鷹）

３．３　クサル，ヤガル，テケツカルについての検討

それぞれの形式の前に，どのような形が接続しているかを検討する．動詞だけでなく目的語もなるべくつけた形で，それぞれの形式の直前部分を並べたのが表３である．クサル・ヤガル・テケツカルに接続する部分を，終止形に変えた．さらに，この表においては見やすさを優先し，現代仮名遣いに直し，漢字仮名表記を変えた部分もある．複数現れたものについては，出現回数を括弧に入れて示した．

表３から，テケツカルにおいては，いくつかのパターンが見出せる．

まず，「…とくる」が５件見られる．すなわち「…ときてけつかる」のパターンである．これは，意味的には「だ/じゃ」と置き換え可能である．

「つまらぬ尻ときてけつかる．」→「つまらぬ尻じゃ．」
「大の好淫(すけべい)ときてけつかるが」→「大の好淫(すけべい)だが」
「商売が盗屋藤兵へときてけつかるが」→「商売が盗屋藤兵へだが」
「勘弥手まりときてけつかるハ」→「勘弥手まりじゃハ」
「恐(おそ)れ入(いり)がらのじりじりときてけつかる」→「恐(おそ)れ入(いり)がらのじりじりだ」

このように，名詞句で何かを描写し，「名詞句＋だ/じゃ」でも意味が通るところを「名詞句＋ときてけつかる」の形にすることにより，描写した対象を罵りながら，リズムのある表現にしている．表３から，テケツカルにおいては，いくつかのパターンが見出せる．

表３　クサル・ヤガル・テケツカルの前に接続する形式

	クサル	ヤガル	テケツカル
非命令形に接続	何（を）ぬかす⑵ 悪口ぬかす ケンケン言う ぽんぽんとぼうはる[12] 断りばかり言わす 片端者のように言わす …目に合わす⑵ 俺をだます わしまでだます なぶる 小遣い銭を盗む 目を盗む 出歩いてばかりいる 冗談ばかりする （お金を）とる 線香を焚きに行く 埃をかける 足の先で潰す あるだけ飲む こんなことを書いておこす 折々来る	何ぬかす⑵ ぬかす⑵ いい口ばかりきく すました面をさらす うせる 目に合わす 打ち通しにしている どうする 歩かせる ろくにおこす＋否定 ほり出す よごす	つまらぬ尻とくる 助平とくる 盗屋藤兵衛とくる 勘弥手まりとくる 恐れ入りがらのジリジリとくる 誰じゃと思う なんと思う どこへ行く いつまでかかる 何をぐずぐずする …のように思う 目が冴える ぐうぐうと寝る 飲んでもらう
命令形に接続	待つ	待つ 見る 置く	目ふさいで見る

次に目につくのは，テケツカルの前にはさまざまな疑問詞が来る場合が比較的多いことである．「誰じやと思ふてけつかるゾ」「なんとおもふてけつかるのじや」「どこへいてけつかるのじや」「いつまでかゝつてけつかるのじゃ」「何をぐづぐづしてけつかるゾ」（下線部本稿筆者）である．これらはいずれも，相手を難詰する意図を持つ修辞的な疑問文である．つまり例えば「誰じゃと思うている」だけでも相手を責めることになるのであるが，それにテケツカルを組み合わせることにより，相手に詰め寄るニュアンスを強めることになる．

さらに，クサル・ヤガルには現れない動詞でテケツカルにいくつか現れたものとして，「思う」がある．「誰じやと思ふてけつかる」「なんとおもふてけつかる」「…のよふに思ふてけつかる」である．テケツカルは，テを介するために，状態性を帯びることになり，「思う」の意味にフィットしやすいのではないかと考えられる．

クサルとヤガルに共通する特徴として，「ぬかす」「ぼうはる」「言う」「口をきく」のような，「言う」という意味を持つ動詞が後続することが目に付く．クサルには，「言わす」もある．対象のせいで話し手が何かを言わされた，被害を受けたことを罵る文脈である．そのよ

うに，対象が何かを「言った」，対象から何かを「言わされた」というような，言説をめぐる罵りがクサル・ヤガルによく接続するようである．

その他の特徴として挙げられるのは，クサルの前につく動詞は，もともと悪い意味がある場合が多いことである．「ぬかす」「ぼうはる」もそうだが，「目に合わす」「だます」「なぶる」「盗む」もそうである．また，動詞には特に悪い意味がなくても，「ばかり」をつけることによって悪い意味が発生する場合もある．「出歩いてばかりいくさる」「冗談ばかりしくさって」がそれに当たる．

ヤガルの場合，「ぬかす」だけでなく，「さらす」「うせる」のような，罵りの意味を含む動詞に接続する傾向があるようだ．また，クサルと同様，「目に合わす」もあり，また，「ばかり」のつく形や，「ばかり」に類似の意味を持つ「…通し」のつく形もある（「打ち通しにしていやがつて」＝打ってばかりいやがって）．

このように，ケツカルはそれだけが持つ特徴があると言えそうだが，クサルとヤガルの差異はあまり大きなものではないようだ．

命令形は，少ないが，クサル・ヤガル・テケツカルのいずれにも出現した．すなわち，「まちくされ」「待あがれ待あがれ待あがれ」「見やがれ」「置やがれ」「見てけつかれ」である．

4　まとめ

江戸時代末期の大阪の戯文集『諺 臍の宿替』『穴さがし 臍の宿替 初篇』『新板 臍の宿かへ 弐編』を資料として，同じ筆者による『穴さがし心の内そと』のデータと併せて，8 つの罵りの助動詞について考察した．その結果，『諺 臍の宿替』には 8 つの罵りの助動詞が全て出現した．中でも，テヤルの出現が著しく多かった．

8 形式のうち，「①話し手以外の動作を表す動詞に接続する．」「②罵りの程度が比較的重いという点で近い．」「③本動詞の意味とまぎれることがない．」の 3 つの共通点を持つクサル，ヤガル，テケツカルの用例を検討した．その結果，テケツカルには「ときてけつかる」（＝ジャ/ダ/ヤ）という決まったパターンが使われること，さまざまな疑問詞とともに修辞疑問文に使われて相手を責めるニュアンスを強めること，「思ふ」とともに使われやすいことがわかった．クサル・ヤガルについては，「言う」という意味を持つ動詞とともに使われやすいこと，悪い意味を持つ形式が前接する場合が比較的多いことがわかった．

5　おわりに

今回扱った滑稽本や戯文集だけでなく，今までに，上方洒落本，明治期以降の落語文字化資料，小説資料などを用いて，罵りの助動詞に関する考察をおこなってきている．今後は，近世と近代を通して，上方方言における罵りの助動詞が，歴史的にどのような変化を経たか，あるいは変化せずに使い続けられているか，をみていきたいと思う．

【注】

[1]テウセルを含めたのは，『諺 臍の宿替』の文章を確認している際に，テウセルが罵りの助動詞として使われていることに気づいたためである．全ての語について品詞解析を行なったわけではないので網羅性の保証という点では弱い．今後の課題にしたい．

[2]ここで調べる 8 形式のうち 4 つは，助詞テを介した上で動詞に接続する動詞であると見ることもでき，「補助動詞」と呼ぶことも考えられるが，ここでは一律に「助動詞」と呼んでおく．

[3]『穴さがし心の内そと』の原典には挿絵が付けられていたようだが，本稿では，前田勇が翻刻したものを資料として用いるので，絵は参照できない．

[4]三ノ三と三ノ四，三ノ六と三ノ七，三ノ九と三ノ十，三ノ十二と三ノ十三，三ノ十四と三ノ十五はそれぞれ，内容的に続いている．初ノ一，二ノ一，三ノ一には，文章がない．

[5]「一丁」が一枚摺りになっており，2 つの文章とそれに沿った挿絵が配置されている．

[6]武藤（1997）の解説を参照．

[7]「女ひとりごと」としたが，この用例の文脈はやや分かりにくく，明らかではない．

[8]「酒通」は挿絵によれば人間ではない．米櫃や炭醤油と共に人間の男を責めるモノである．

[9]「かたわもの」という表現は現代では差別的であるが，文意を取るために出典のままにしておく必要があると思われるのでそのままおくことにする．

[10]ここで男が「どふしやがるのじや」と言っているのは，千鳥足になっている自分の状況について，罵っているものである．

[11]「こゝろで」とあるので，心の中の独り言である．

[12]動詞「ぼうはる」は牧村（1979）によれば「反抗する. 意地になってたてつく.」という意味であるが，ここでは「偉そうにポンポンとぼうはる」という文なので「ぼうはる」は，「口をきく」くらいの意味かと思われる．

【資料】

・一荷堂半水作『穴さがし臍の宿替　初篇』『新板臍の宿かへ　弐編』（武藤（1997）所収）
　：安政（1855-60）ごろ刊行
・一荷堂半水『穴さがし心の内そと』（前田（1974）所収）
　：元治（1864-65）前後の刊行か
・一荷堂半水作，歌川芳梅画『諺 臍の宿替』（武藤（1992）所収）
　：刊行年未詳，元治（1864-65）以降か（上記の『穴さがし心の内そと』後の刊行と推測される）

【参考文献】

前田勇，1964，『近世上方語辞典』東京堂．
前田勇翻刻，1974，一荷堂半水「穴さがし心の内そと」『近代語研究』第 4 集．

牧村史陽，1979，『大阪ことば事典』講談社．（縮刷再録：1984,『大阪ことば事典』講談社学術文庫．）
村中淑子，2019，「「穴さがし心の内そと」における罵り表現について――助動詞・補助動詞を中心に」『現象と秩序』10: 21-38.
村中淑子，2020，『関西方言における待遇表現の諸相』和泉書院.
武藤禎夫校訂・解説，1992，一荷堂半水『諺 臍の宿替』太平書屋.
武藤禎夫編，1997，『江戸明治　百面相絵本八種』太平書屋.
山崎久之，1963，『国語待遇表現体系の研究　近世編』武蔵野書院.
山崎久之，1990，『続国語待遇表現体系の研究』武蔵野書院.
湯沢幸吉郎，1936（1982 再版），『徳川時代言語の研究　上方篇』風間書房.
湯沢幸吉郎，1954（1957 増訂版参照），『江戸言葉の研究』明治書院.

＊＊

【編集後記】

『現象と秩序』第 18 号をお届けします．今号には，新旧のさまざまな調査に基づいた論文が 5 本集まりました．本誌らしい品揃えであるといえるでしょう．

第 1 論文は，「Zoom」利用時によくみられる現象，すなわち「早口で言いたいことをまくし立てる」というような不思議な現象についての研究です．そのようなことがなぜ起きるのか．それはいったいどんな効果を持っているのか．これらの問いにビデオデータの解析を通して答えるものになっています．オチは，コミュニケーション上の必要に対応してのことなのだ，という謎解きになっており，データに基づいた着実な研究であるといえるでしょう．

第 2 論文は，試着場面研究です．試着室で鏡を通して客と店員がコミュニケーションをしているとき，じつは大量の想像がコミュニケーションに伴っているという主張こそは「試着」というものの豊かさを示すものでしょう．本来なら軽蔑の対象となりそうな「自賛」に類似した活動が，試着においてどのように可能となっているのか，の謎解きも秀逸です．

第 3 論文と第 4 論文は，いずれも社会言語学的な「罵り言葉」の研究です．関西における罵り言葉には，言及対象の価値を引き下げる効果以上の質があると感じていましたが，このように実例をもって丁寧に例証されると納得です．用例を探しながら青空文庫の『わが町』を読みましたが，とても人情味があってほっこりしました．本作は映画化もされています．実際にどう発話されているか，興味を持ち，現在取り寄せ中です．

第 5 論文は，「AI と人間の関わり」に関して示唆的でした．AI は，人間の内部にいる他者として，人間の活動を助ける振りをしながらじつは統制しているのではないか．具体的には，人間の現在の選択肢構造を強く支援することで，選択肢構造の変更可能性を実質的に抑圧しているのではないか．そうすることで，人間が新しい人生を生きる可能性を封じているのではないか，と恐ろしく思われました．ゲーム研究から文化研究への道筋が，この路線の先に描き得るようにも思われます．（Y.K.）

『現象と秩序』編集委員会（2022 年度）

編集委員会委員長：堀田裕子（摂南大学）

編集委員：樫田美雄（神戸市看護大学），中塚朋子（就実大学），加戸友佳子（神戸大学）

編集協力：村中淑子（桃山学院大学）

『現象と秩序』第 18 号　　2023 年　3 月 31 日発行

発行所　〒651-2103 神戸市西区学園西町 3-4

神戸市看護大学　樫田研究室内　現象と秩序企画編集室

電話・FAX）078-794-8074（樫田研），e-mail:　kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN　：2188-9848

ONLINE ISSN　：2188-9856

http://kashida-yoshio.com/gensho/gensho.html